

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

新潟県

学校名

小千谷市立東小千谷小学校

人権課題

子供

対象学年・  
取り扱った教科等

1学年 道徳科

目標・人権教育のねらい

- 自分たちの生活と重ねながら、困っている友達の存在に気付くことができる。(知的側面)
- 辛い思いをしている友達の願いや訴えを受け止め、自分たちで問題を解決しようとする気持ちを育てる。(価値的・態度的側面)
- 困っている友達の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てる。(技能的側面)

実施した内容

生きる I 「ぼくもしたい」の資料から、仲間外しをされて困っている友達の存在に気付き、自分がどう解決していくかを考えた。傍観者の立場に立って、再び仲間外しをされた友達や、仲間外しをした本人、周りの友達に対してどのような声をかけるかをワークシートに書き、仲間と考えを共有しあった。その中で、被差別者である友達の願いや思いに寄り添い、声をかけようと決意する子どもたちの姿が見られた。

工夫した点

- ・休み時間での様子を想起させる発問（「休み時間に遊びの仲間に入れてもらえなかったことや、友達が仲間に入れてもらえなかったことを見たことがありますか」）をしたことで、児童にとって身近な問題となり「自分ごと」として捉えやすかった。
- ・挿絵を黒板に構造化して示したことで、差別構造やそれぞれの関係性を把握しやすくなり、理解につながった。

他教科との  
関連

道徳「みらいくんのえ」  
道徳「じゃんけんぽん」  
学級活動「より良いクラスにするために」

事業成果

学習後の振り返り記述及び児童の行動の見取りから分析

知 友達と仲良くすることの大切さがわかる 78%  
 価 困っている友達に対して自分からかかわろうとしたり、寄り添おうとしたりする 62.5%  
 技 仲間外しがあったら 「一緒に遊ぶ」 37.5% 「寄り添って訴える」 25% 「注意する」 37.5%

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

新潟県

学校名

小千谷市立東小千谷小学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等

2学年 道徳科

目標・人権教  
育のねらい

- 畑の先生として野菜の育て方を教えてもらうなど、高齢者との触れ合いをとおして豊かな経験や技術について学ぶとともに、高齢者の思いや願いについて知ることができる。（知的側面）
- 自分の身の回りには、自分を支えてくれている人がいることに気付くことができる。（価値的・態度的側面）
- 身近な高齢者や地域の人に対して感謝の気持ちを持ち、言葉や手紙に表すことができる。（技能的側面）

実施した内容

「はばたこう明日へ」3年生版（教育出版）の「公園のひみつ」を資料に、高齢者への感謝の気持ちについて話し合うことを通して、身近な人々は生活を支えてくれていることに気付かせ、尊敬と感謝の気持ちを自分なりに表現する方法について考えた。

工夫した点

- ・口演法で、資料を分断しながら提示することで、3年生版の教材でも、場面状況を理解しながら、集中して聞くことができた。
- ・散歩に行っていると思っていたおじいちゃんが、公園のそうじをしていたことに気付いた場面や、「わたし」の心が動く場面で役割演技を実施した。登場人物に寄り添って考え、またそれを全体に共有することで、心情理解を深めた。

他教科との  
関連

生活科「わたしたちのやさいばたけ」  
国語「ありがとうをつたえよう」  
道徳「お母さん ありがとう」

事業成果

授業後の振り返り記述を分析  
 知 高齢者は自分を支えてくれる存在だと思う 72.2%      高齢者に対して外面的なイメージのみ 27.2%  
 価 高齢者に対して優しくしたい 100%  
 技 身近な高齢者や地域の人への手紙で感謝を表すことができた 100%

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

新潟県

学校名

小千谷市立東小千谷小学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等

4 学年 道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・「ボッチャ」や乙武氏の生き方を通して、それぞれの障害の状況や、障害者の自立への思いについて理解を深める。（知的側面）
- ・障害者に対する差別や偏見をなくすために自分ができることを考えている。（価値的・態度的側面）
- ・互いに助け合うことや、自立することの大切さについて考えを伝え合うことができる。（技能的側面）

実施した内容

体育で行った「ボッチャ」の体験と、乙武洋匡著「五体不満足」のブックトークを題材に、障害のある方の生活や思い、周囲の家族の思いに触れ、そのような人たちと共にこの社会で生きていくための大切なこと（互いを理解すること、協力すること、平等にすることなど）を考えた。

工夫した点

- ・事前に体育で「ボッチャ」を体験し、競技の楽しさや難しさを味わうことを通して、パラリンピックに出場する選手たちの素晴らしい技能を実感できるようにした。
- ・本や写真、動画を用いて、身近に障害者の方がいない児童でも、障害について理解できるようにした。
- ・障害者の人権について広く学んでもらえるよう、参観日に授業を実施し、保護者からも、授業の感想や障害者に対する考えを書いてもらう機会を設けた。

他教科との  
関連

体育「ボッチャ」  
総合「みらいのつくる未来」（SDGs）  
道徳「ヘレンケラー」

事業成果

授業後の振り返り記述及びアンケートを分析

知 障害を持つ人がどのように自己実現をしているか分かった 100%  
 価 障害のあるなしにかかわらず、違いを認め協力していこうとする 95%  
 技 障害のある人が困っているときに進んで助けることができると思う 93%

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

新潟県

学校名

小千谷市立東小千谷小学校

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

6学年 道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・人種差別、部落差別に対する基礎的な理解や、差別と闘った人々の社会に対する憤りや思いについて理解を深める。（知的側面）
- ・差別に立ち向かった人々の生き方に対する尊敬や感謝の気持ちを持ち、共に差別と闘っていかうとする態度を育てる。（価値的・態度的側面）
- ・差別に立ち向かった人々の心情を共感的に受容し、感じ取ることができる。（技能的側面）

実施した内容

「生きるⅢ」の「汚染一揆」を資料とし、差別の不当性に憤り、自由や平等を求めて自ら行動を起こした人々の思いや行動から、正しいと思うことに勇気をもって行動することの大切さについて考えさせた。また、班での話し合いを通して、差別との闘いに打ち勝った要因について考え、正当な権利の主張の在り方や思いを実現させるために自分ができることを追究した。

工夫した点

- ・事前に歴史的な背景や事件の概要を学習していたことで、課題への取組がスムーズだった。同和学习はどの内容も読み取りが難しく、関係性や経過が把握しづらいが、挿絵を時系列に掲示することで内容が整理され、児童の理解につながりやすいと分かった。
- ・グループを一つの村に見立て、疑似的に当時の話し合いを再現する形にしたことで、児童は当事者の家族やこれからの生活に思いを馳せるなど、具体的なイメージをもって参加の可否の理由を話し合うことができた。

他教科との  
関連

道徳「どれい解放の父リンカン」  
道徳「差し出し続けた大きな手」  
学級活動「クラスの課題について話し合おう」

事業成果

授業後の振り返り記述及びアンケートを分析

知 同和問題に対して関心をもっている 89.6%

価 不当な差別である同和問題を知って憤りを感じている 89.7%

技 差別に立ち向かった人に対して共感できる 52.6% 同じような行動ができなくても気持ちを理解できる 84.2%

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

新潟県

学校名

小千谷市立東小千谷小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

2学年 道徳科

目標・人権教育のねらい

- パソコンやインターネットを使うときに気を付けることを知る。(知的側面)
- パスワードなどの個人情報の管理に責任をもとうという気持ちをもつ。(価値的・態度的側面)
- パソコンのロックの仕方など、個人情報を守る方法が分かる。(技能的側面)

実施した内容

小千谷市民学習センターの齋藤新様を講師にお招きし、「みんなでつかうものだから」(ネット社会の歩き方)の資料映像を基に、学校で使っているGIGAパソコンの使い方で気を付けることは何かを考えた。身近なところに個人情報の流出の危険があることに気付いたり、個人情報は、自分だけでなく様々な人にも影響を与えることを知ったりすることができた。また、「SNSなどをつかう」(文部科学省資料画像より抜粋)を基に、SNSの危険性について気付き、ワークシートにまとめた。

工夫した点

- ・導入で、GIGAパソコンを使うときに気を付けていることについて思い出させることにより、身近な問題だという意識をもたせた。「落とさない」「壊さない」など、扱い方を知っていると思っていた子どもたちの意識が、個人情報という観点では知らないことが多いことが分かり、学習内容に引き込まれて深く考えるきっかけとなった。
- ・講師の先生とのT.Tで学習を進めることにより、映像や画像を活用した授業展開を行い、個人情報の大切さについて理解を深められた。保護者にも参観してもらい、家庭と連携した学習につながった。

他教科との  
関連

学級活動「GIGAパソコンの使い方」  
道徳「黄色いベンチ」

事業成果

授業後の振り返り記述を分析

知 インターネットを使うときに気を付けることを1つでも知っている 100%

価 パスワードの管理などに気を付けようと思う 75%

技 端末をロックするなど自分の情報を守ることができる 100%